

和泉地方における重要井堰と湧水帯

大越勝秋

和泉地方はもと河内国の一部であった。靈龜二（七一六）年に大鳥和泉日根三郡をもって和泉監を置き、ついで天平一二（七四〇）年八月、和泉監を廃し河内国に合併した。天平宝字元（七五七）年五月河内国より分離独立して和泉郡府中に国衛を置くことになった。中世和泉国の南部をさき南郡とし、四郡となって明治に至った。

和泉地方は大阪府下大和川以南、大阪湾岸の地域で、その形ほぼ直角三角形をなしている。底辺部に当たっているのが、東西方向に走っている和泉山脈で、紀伊・和泉の両国の国境をなしている。また和泉山脈の北方には二筋の断層線によって外前山・内前山がそびえ、丘陵・洪積層の台地に続いている。直角三角形の高さの部に相当するのが河内・和泉両国の境界の山岳・丘陵である。斜辺部に相当するのが大阪湾岸の海岸線となっている。海岸沿いに細長く和泉海岸平野がのびている。

河川

土地の傾斜は東南から西北に向って次第に低下している。和泉地方の河川は東南部の和泉山脈から源を發し海岸線に向って直交し、石津川・大津川・春木川・津田川・近木川・見出川・佐野川・榎井川・男里川・番川・大川・東川

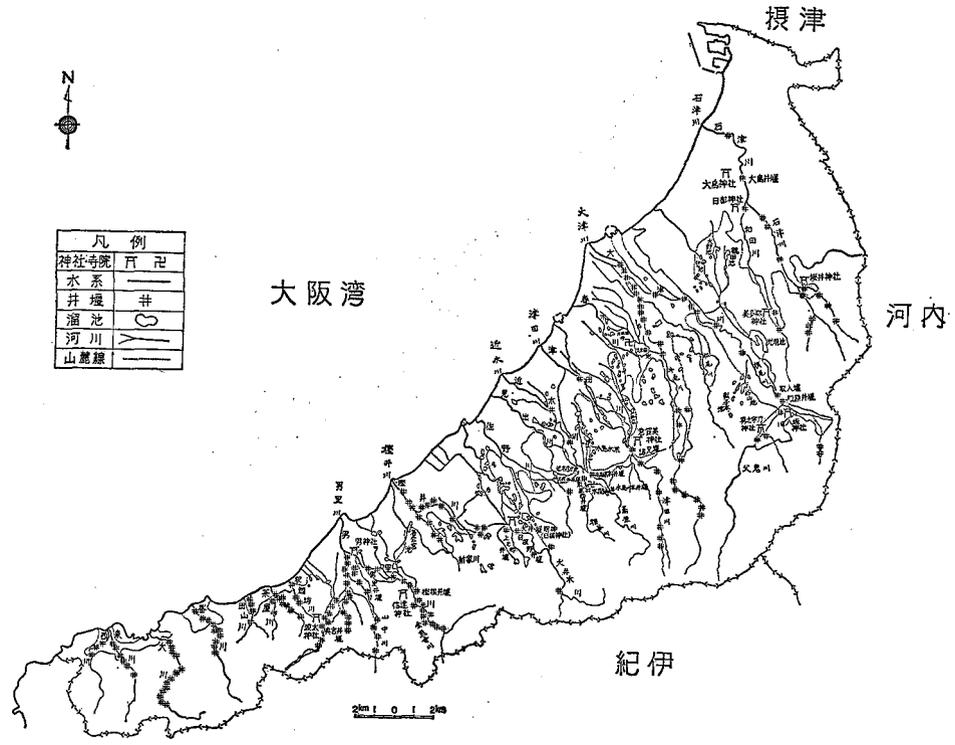


図1 和泉地方における井堰および水系図

・西川など狭小な多くの川が北西に並流して大阪湾に注いでいる。河の谷は浅く川幅は狭く大河はみられない。川の水も雨期にはあるが、渇水期には水無川となっている。その利用も澆灌用と飲料水に供される程度である。

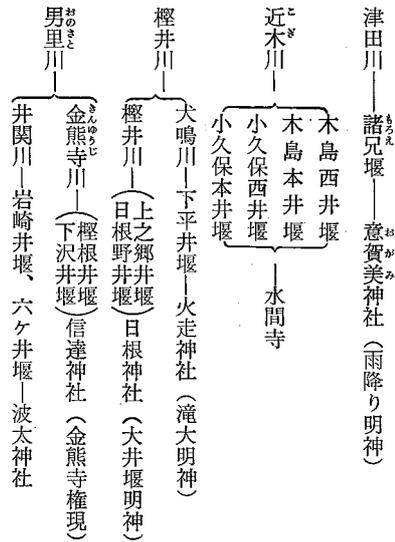
井 堰

和泉地方の年雨量は岸和田市を例にとると一三八九ミリで、瀬戸内式の寡雨乾燥気候区に属している。稲作農業には水は欠かすことが出来ない。平地は勿論のこと、山間部でも溜池を築いて貯えている。川を堰きとめて井堰井路（水路）をつくり溜池に貯え、川に流して中下流の地域の水田に灌漑している。和泉地方の河川には多くの井堰が分布している。（和泉地方における井堰および水系図参照）

井堰は以前は竹を細長く割って平にし細長い筒形の竹籠とし、蛇籠とよばれた。その中に河原の砂利をとって詰め粘土をつめて川にわたして河水を堰止めて水路（井路）に流した。竹籠の後には針金で網をつくり、その中に砂利粘土をつめて堰とした。現在ではコンクリート製の井堰と変っている。井堰のところから水路（井路）を掘って中流下流に流し、年に一回か二回くらい人足や人夫が出て井堰・井路の修理清掃に当たっている。

和泉地方の川には次のような井堰や社寺が存在している。

- 石津川——山代井堰——桜井神社
- 〃——大鳥井堰——大鳥神社
- 〃——小野井堰——日部神社
- 和田川——山樋井堰——美多禰神社
- 大津川——取入堰、殿原井堰——磨八坂神社
- 牛滝川——積川井堰——積川神社



川に井堰が設けられ、その重要な井堰の近くに神社か寺が建てられている。井堰の安全、農業用水の豊富を祈願する井堰神をまつている。

これらのうち岸和田市阿間河澗に意賀美神社があり、近く津田川の所に諸兄堰とよばれる橋諸兄が庶民のため築いたといわれている井堰がある。ここから水路によって土生に至る土生郷水系、阿間河に至る阿間河水系がある。津田川中流、下流の地域の農業用水となっている。

貝塚市水間において近木川の上流、蕎原川と稚谷川とが合流している。水間寺の周辺に小久保西井堰、木島西井堰、小久保本井堰、木島本井堰四つの主堰がある。行基菩薩はここに井堰を設けたら近木川中流の人々は農業用水に困ることがないことを教えられ、井堰を築かれた。

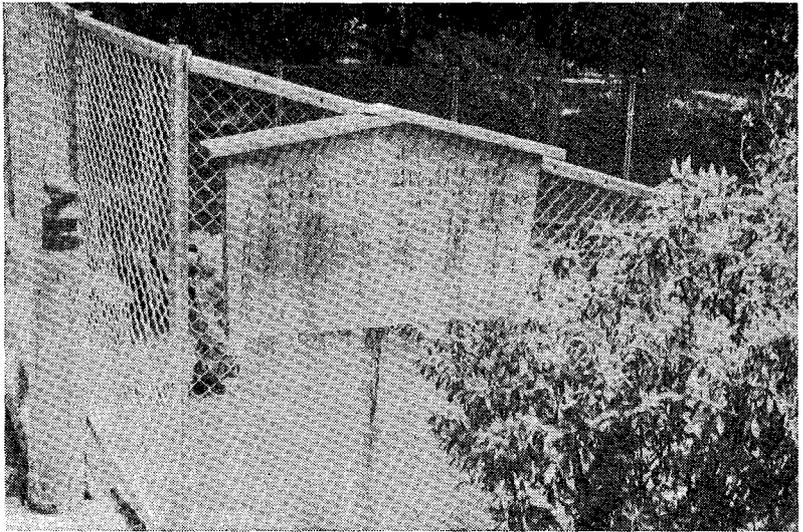


写真 1 兵主神境内 蛇の淵（岸和田市西之内町）

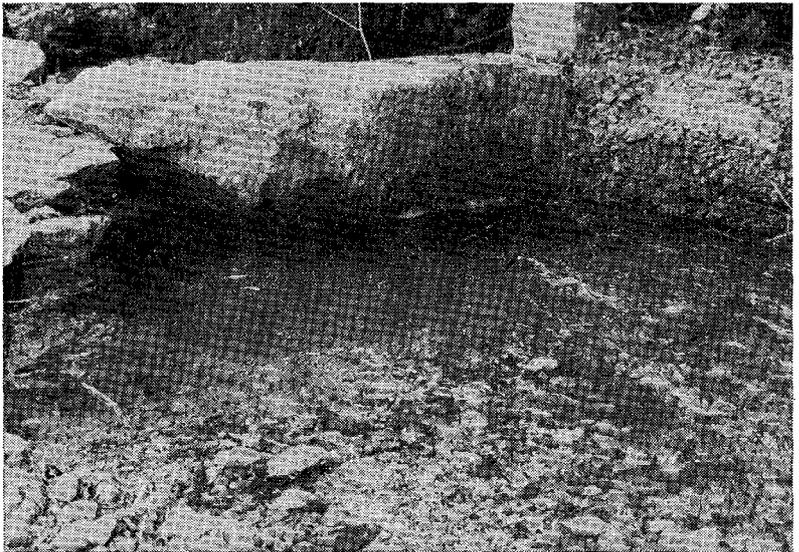


写真 2 諸兄堰の一部 岸和田市阿間河滝にある。土生郡水系と阿間河水系の分水のための石が置いてある。

さらに水間寺、水間寺上座では毎年七月一八日水間寺の裏手の通天橋上に机をならべ五本の御幣と山の幸、海の幸をそなえ、水間寺の住職と寺僧とが整列して四つの井堰に向つて水の豊富、五穀の豊饒を祈願している。その年の当番の寺僧が四つの井堰と裏山に雨の神である八大竜王をまつる所に御幣一本ずつを奉納している。「井堰祭・湯のまつり」と呼ばれ、貝塚市旧木島村、岸和田市阿間河に、また貝塚市旧麻生郷村、近木庄水系によつて近木庄域に灌漑している。

泉佐野市日根野に日根神社が祀つられ、近く、樫井川の上之郷井堰、日根野井堰（大井堰ともいう）が設けられ、両井堰からの用水は慈眼院の境内を通つて、泉佐野市旧上之郷村、同日根野村、旧長滝村域、さらに稲倉池を築きその用水をも導いて下流泉佐野市域の水田の灌漑におよんでいる。

和泉地方の河川に数多くの井堰が分布している。それらのうち、津田川の上流の諸兄堰、近木川上流の水間寺近くの四つの井堰（小久保西井堰・小久保本井堰・木島西井堰・木島本井堰）、樫井川の日根神社近くの大井堰（上之郷井堰・日根野井堰）はそれぞれの中下流域の水田を広範囲に灌漑している。このために重要井堰とよんだのである。

湧水帯

和泉地方における気温として岸和田市を例にとると冬の一月は四・五度C、二月は四・九度Cで、しのぎよく、七月は二六・八度C、八月は二八・〇度Cで夏はむし暑い。年雨量は一三八九ミリで少ない瀬戸内式の寡雨乾燥気候区に属している。和泉山脈・前山・丘陵地帯に降った雨は地下水となり、和泉丘陵の末端部近くに湧水としてわき出ている。和泉市の和泉府中の泉井上神社境内の清水、岸和田市作才町の共同洗場、同市土生町の土生神社境内の蛇の

淵、同市西之内町の兵主神社境内の蛇の淵、同市中井町の夜や疑神社正門入口近くの蛇の淵などはその具体例で、多くは小栗街道近くにあり第一次湧水帯となっている。古代中世にかけ貴族階級の人々などが熊野を浄土とみたてて、小栗街道を通過して熊野詣をなす習慣があった。旅路になくはならない旅行者の飲料水となったのが、小栗街道近くの湧水だった。ずっとその後も現在でも湧水は灌漑用水として利用されている。

洪積層台地の末端、岸和田市では岸和田城の西側、岸和田市本町の一里塚弁才天の近くや岸和田市南町二四の清水地蔵の近くも湧水がみられたという。

貝塚市願泉寺の西側、泉佐野市旭町、泉南市樽井町、泉南郡阪南町尾崎町の恵比野にある波太神社の御旅所など近世の交通幹線であった紀州街道近くにも湧水地を通るように路線が布かれ、近世交通路と湧水地が密接に結びついていることを物語っている。この紀州街道沿いの湧水地を第二次湧水帯とよぶことにする。

追記

泉南市樽井は洪積層の台地からこんこんと湧き出る「山之井」の清泉「茅渟やまきのの山城水門」にその名が発祥していると伝えられ、樽井は「山之井の里」、また垂井たらいともいい、清水の垂れる意から出た呼び名である。

山之井の跡は樽井の中央やや西寄りに位置し円形井となっている所といわれている。古い湧水地を伝承している。